

令和4年度

公立大学法人福井県立大学業務実績評価書

令和5年8月

公立大学法人福井県立大学評価委員会

目 次

本評価の位置づけ	1
I 評価結果	1
1 全体評価	1
2 分野別評価	2
II 項目別評価	6
新学部・新学科の創設	6
教育	6
研究・地域貢献	8
国際化・情報発信	9
業務運営	10

《本評価の位置づけ》

本評価は、公立大学法人福井県立大学評価委員会が、地方独立行政法人法第78条の2第1項の規定に基づき、令和4年度に法人が中期計画に基づき行った業務実績を評価するものである。

評価に当たっては、中期計画で取り組んだ9項目を分野別に、法人からの聴き取り等を参考に、法人が行った自己点検・評価を基にその妥当性の検証と評価を行った。

I 評価結果

1 全体評価

令和4年度の業務実績に対する評価結果は次のとおりである。

目標達成に向けて計画の実施に努めており、**概ね計画どおり達成した**と判断される。取り組んだ9項目の評価については、次のとおりである。

「計画を上回って実施している」	2 計画
「計画を順調に実施している」	6 計画
「計画を十分に達していない」	1 計画

特に評価できる点は、次のとおりである。

- ・学生向け就職説明会やOB・OGとの懇談会等の開催により、就職率99.4%と過去最高を達成するとともに、学生に寄り添った支援策を実施した点は評価できる。また、福井県にとって重要である県内への就職割合において、目標値を上回った点についても評価できる。

2 分野別評価

1 のとおり、令和 4 年度計画を概ね計画どおり進めたと認められるが、4 年度の進行状況を踏まえた評価委員会の提言は、次のとおりである。

新学部・新学科の創設

- ・次世代の地域リーダーを養成する新学部（文系新学部）の開設について、中期計画より遅れている。いろいろ事情もあったと思うが、今後の取組みに期待したい。
- ・恐竜学部の開設、次世代の地域リーダーを養成する新学部（文系新学部）の開設が今後の大きな目玉となる。恐竜学部については、令和 4 年度基本設計、今年度実施設計となっており順調に進んでいる。また、文系新学部は、有識者会議の実施、今後は、学部構想の策定を進めていく予定だと思う。今後も開設に向けて頑張りを期待する。

教育

- ・博士後期課程の学生には社会人入学している者も多く、社会人との兼合いから修了年限内での修了が難しいことも考えられる。研究科の先生方と大学の協力で修了年限内で修了できるよう努力いただきたい。
- ・県内学生の入学率が目標値の 50%を下回っており、目標を上回るような取組みが必要となる。
- ・社会人の学生の受け入れが伸び悩んでいるようである。社会人が勉強できる機会を増やすことは今後関心が高くなると思う。社会人にどのようにアピール、宣伝していくかが重要である。
- ・「地域貢献」における様々な取組みへの関心は高く、トレンドを講座開講に反映させるなど、多様な学生の受入れにおける社会人受入れにつなげることを期待する。

研究・地域貢献

- ・研究の申請率が伸びてきているのは、とてもいいことである。採択率の向上は難しいところもあると思うが、申請率が伸びてくれば、採択数は上昇していくと考える。今後も申請数の向上に期待する。

国際化・情報発信・業務運営

- ・情報発信の分野は、達成指標を達成しており積極的に取り組んでいることがみえ評価できる。
- ・情報発信についてしっかりやっていると思う。今後も全国版のランキングなども活用し、アピールしていただきたい。
- ・コミュニケーションマークがホームページなどで目にやきつくようなものにするなど、アピールを期待する。
- ・コロナの影響で、学生の海外留学の割合が低くなっているのは非常に残念であり、今後の取組に期待していきたい
- ・チューター制度について他の大学ではホームページに掲載などしてPRしている。チューター制度のPRについては、今後期待していきたい。
- ・自己収入比率目標設定 35%とされており、目標を達成していることは大変素晴らしいことである。しかし、設定目標の妥当性も重要であり、来年度の中期計画策定に向けて検証が必要である。

■中期計画分野別評価結果

中期計画分野	項目数	評 価 結 果			
		S 計画を上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分に 実施していない	C 計画を 実施していない
新学部・新学科の創設	1		1		
教 育	3	1	2		
研 究	1		1		
地 域 貢 献	1		1		
国 際 化	1			1	
情 報 発 信	1	1			
業 務 運 営	1		1		
計	9	2	6	1	

■中期計画分野別評価結果

評価項目（中期計画）		法人 評価	委員会 評価
I	新学部・新学科の創設	S	A
II	教育		
	1) 教育内容、実施体制の強化	A	A
	2) 多様な学生の受入れ	A	A
	3) 学生への支援	S	S
III	研究	A	A
IV	地域貢献	A	A
V	国際化	A	B
VI	情報発信	S	S
VII	業務運営	A	A

分野		法人の自己 点検・評価	概要	評価委員会 の評価	特記事項
I 新学部・新学科の創設		S	<p><総括> 令和4年4月に先端増養殖科学科を開設したほか、かつみキャンパスでの新学科棟等の建設工事、恐竜学部（仮称）の開設に向けた学部棟に係る基本設計や教員の人選、次世代の地域リーダーを養成する新学部（文系新学部）の開設に向けた有識者会議の設置など、新学部・新学科に係る準備を着実に進めた。</p> <p><主な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・先端増養殖科学科を令和4年4月に開設。拠点となる「かつみキャンパス」に建設する新学科棟および飼育実験棟について、令和5年10月供用開始に向けて建設工事に着手した。 ・恐竜学部（仮称）の令和7年4月開設に向け、教員の人選や具体的なカリキュラムの構築、県内各種業界団体との意見交換を実施した。また、勝山市に建設を予定している学部棟の基本設計や建設予定地の地質調査を行った。 ・次世代の地域リーダーを養成する新学部（文系新学部）について、学識経験者等で構成する有識者会議を設置し、新学部の方向性などについて検討を開始した。 ・大学院博士後期課程「健康生活科学研究科」（令和5年4月開設）は、令和4年8月に文部科学省に認可され、積極的な広報周知等を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代の地域リーダーを養成する新学部（文系新学部）の開設について、中期計画より遅れている。いろいろ事情もあったと思うが、今後の取組みに期待したい。
II 教育	1 教育の内容、教育実施体制の強化	A	<p><総括> 文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの認定に向け、必要な体制を整備したほか、地元経営者等による特任講師制度について、先端増養殖科学科にも導入するなど実践的な教育の充実を図った。</p> <p><主な取り組み></p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・博士後期課程の学生には社会人入学している者も多く、社会人との兼合いから修了年限内での修了が難しいこと

分野		法人の自己点検・評価	概要	評価委員会の評価	特記事項
			<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の令和5年度認定に向け、情報専門教員の増員等、必要な体制を整備した。 ・アクティブラーニングに対応した講義室を整備し、課題解決型（PBL）授業等を実施した。 ・地元経営者等による特任講師制度について、創造農学科において増員するとともに、先端増養殖科学科にも導入し、実践的な教育の充実を図った。 		も考えられる。研究科の先生方と大学の協力で修了年限内で修了できるよう努力いただきたい。
Ⅱ 教育	2 多様な学生の受入れ	A	<p><総括> 社会人等を対象としたリカレント教育講座を実施したほか、外国人学生向け大学案内リーフレットを作成し国内の日本語学校に配布する等、多様な学生の受入れを進めた。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人を中心に本学の大学院での学びを広く周知するため、短期ビジネス講座や看護・医療職リカレント教育講座を実施した。 ・外国人学生に対し本学を積極的にPRするため、外国人学生向け大学案内リーフレットを作成し、国内の日本語学校に配布したほか、オープンキャンパスツアーを実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の学生の受け入れが伸び悩んでいるようである。社会人が勉強できる機会を増やすことは今後関心が高くなると思う。社会人にどのようにアピール、宣伝していくかが重要である
	3 学生への支援	S	<p><総括> 家族向け就職説明会や就職内定者報告会の開催、県内企業への訪問による採用情報の収集等の支援を行うことにより、就職率99.4%と過去最高を達成するとともに、県内就職割合は引き続き50%超を確保した。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族向け就職説明会や就職内定者からの就職活動等報告会の開催、県内企業への訪問による採用情報の収集等を実施した。 	S	

分野		法人の自己点検・評価	概要	評価委員会の評価	特記事項
			<ul style="list-style-type: none"> ・院生・外国人留学生を対象とした授業料免除、特待生への奨学金など、本学独自の経済支援を実施した。 ・学生へのアンケートや意見交換を踏まえ、駐車場の安全対策など施設整備を実施した。 		
Ⅲ	研究	A	<p><総括> 農水産物の県産化等をめざす全学的な研究プロジェクトを推進したほか、科研費等申請者を対象としたステップアップ補助金等の支援を行い、先端研究や地域研究を推進した。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井県の持続可能性を支える研究テーマを学内公募し、社会実装に向けた研究を推進した。 ・開学以来の研究成果の蓄積を基に、輸入依存度の高い小麦、サバなどの農水産物の県産化等をめざす全学的な研究プロジェクトを推進した。 ・科研費等申請者を対象としたステップアップ補助金、公募情報の周知強化等により、科研費等の申請率は87.8%、教員一人当たり論文・特許出願数は1.6件となり、本学全体の特許出願数は10件に増加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の申請率が伸びてきているのは、とてもいいことである。採択率の向上は難しいところもあると思うが、申請率が伸びてくれば、採択数は上昇していくと考える。今後も申請数の向上に期待する。
Ⅳ	地域貢献	A	<p><総括> 自治体や団体等と連携し、地域の発展に寄与する研究を実施したほか、リスキリングなど多様な公開講座を、オンラインを中心に実施し、約3,700人が受講した。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携本部と東京大学地域未来社会連携研究機構が連携協定を7月に締結し、シンポジウムを開催したほか、東大生と県大生がワークショップやフィールドワークを実施した。 	A	

分野	法人の自己点検・評価	概要	評価委員会の評価	特記事項
		<ul style="list-style-type: none"> 産学官連携組織・ふくい水産振興センターの飼育施設を利用し、福井中央魚市と共同でふくいサーモンの給餌システムの最適化に関する研究を開始した。 本学と越前市、NTT西日本との間で、ICTを活用した健康増進に関する連携協定を締結し、「住民のより良い睡眠の実現と社会福祉費用の抑制」をテーマに取組を開始した。 ウェルビーイング関連について永平寺町、越前市、小浜市の行政事業・計画の策定の際に協力・支援した。 リスキリングや中高生を対象とした講座など、多様な公開講座を、オンラインを中心に70講座実施し、約3,700人が受講した。 		
V 国際化	A	<p><総括> 留学体験報告会の開催や経費補助等により留学等に対する意欲向上を図るとともに、ワールドカフェ等を拠点に英語による講座の開催など様々な支援を行ったほか、外国人留学生の確保に向け、協定校や国内の日本語学校に対し当学を積極的にPRした。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> 留学体験報告会の開催、常設の留学相談、経費補助等により留学等に対する意欲向上を図った。 新たに韓国の大邱カトリック大学校と学術交流協定を締結したほか、米国のフィンドレー大学など協定校との交流を推進した。 リニューアルしたワールドカフェ等を拠点に、教員やインストラクターが英語で講座を開催するとともに、学生による語学勉強会等を支援した。また、留学生向けのワンストップ相談窓口を整備した。 新型コロナによる影響が残る中、外国人留学生の確保に向け、協定校や国内の日本語学校に対し当学を積極的にPRした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響で、学生の海外留学の割合が低くなっているのは非常に残念であり、今後の取組に期待していきたい。

分野	法人の自己点検・評価	概要	評価委員会の評価	特記事項
VI 情報発信	S	<p><総括> 積極的なプレスリリースやSNSを活用した情報発信を強化し、メディア掲載・放送件数は、目標値を大幅に超える500件超を達成したほか、本学創立30周年を記念した式典やシンポジウムを開催するなど、本学の魅力を広く発信した。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的なプレスリリースやSNS（Twitter、Facebook）の活用により情報発信を強化した。 ・UIデザインを用いた県大オリジナル・グッズを制作、販売する等、学内外に広くPRした。 ・本学の創立30周年を記念した「ホームカミングデー」において式典やシンポジウムを開催した。 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の分野は、達成指標を達成しており積極的に取り組んでいることがみえ評価できる。
VII 業務運営	A	<p><総括> 情報センターの令和5年4月開設に向け、設立検討委員会を設置し、必要な体制を整備したほか、厳しい財政状況の中、計画的な執行と経費削減、クラウドファンディングによる自己財源の確保等に努めた。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携担当の副学長、ハラスメント対策担当の特任学長補佐を配置して事業推進体制を整備した。 ・情報センターの令和5年4月開設に向け、情報センター設立検討委員会を設置し、情報教育の充実や大学のデジタル化に必要な体制を整備した。 ・電気料金の高騰をはじめとする厳しい財政状況の中、計画的な執行と経費削減、クラウドファンディングによる自己財源の確保等を推進した。 ・新型コロナウイルス感染防止については、学内ワクチン接種（3回目）の実施や対策会議の開催による臨機応変な対策を行い、学内での新規感染者を抑制した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自己収入比率目標設定35%とされており、目標を達成していることは大変素晴らしいことである。しかし、設定目標の妥当性も重要であり、来年度の中期計画策定に向けて検証が必要である。

公立大学法人福井県立大学評価委員会 委員名簿

氏 名	職	備 考
しらす 白須 としろう 敏朗	一般社団法人大日本水産会相談役	委員長
てしま 豊嶋 まさこ 雅子	フクビ化学工業(株)顧問	
なかの 中野 ひろみ 裕美	豊橋技術科学大学副学長	
ふるたに 古谷 きよかず 清和	敦賀気比高等学校長	
やまもと 山本 のりこ 則子	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 高齢者在宅長期ケア看護学／緩和ケア看護分野 教授	

(50 音順)